

篠岡地区の学校再編に関する保護者等説明会 における質疑応答の記録（要旨）

日時：令和8年6月20日（土）14時～

場所：大城小学校 体育館

対象：大城小保護者

■徒歩通学について

○通学団の人数等には基準があるのか。

地域性等もあることから、統一的な基準があるわけではない。

通学団編成にあたっては、毎年、人数や学年の構成等の実態も踏まえて、調整をしているが、そもそもの児童数が少ない地域については、通学路の途中で他の通学団と合流することなどで通学の安全を確保している。

○酷暑期の通学支援や熱中症対策として、ボランティアではなく、市が「通学指導員」などとして雇用・配置をしてほしい。

児童生徒の熱中症対策について、学校再編とは別に全市的な課題として協議、対策を進めている。今年度については、「マイボトル給水機」や体育館への空調機設置などの対策を実施したところであり、引き続き、学校現場とも連携を図りながら、様々な対応を検討してまいりたい。

○大城小学校の卒業生だが、過去、通学中に恐怖を感じるような経験が何度もあった。通学の安全対策については万全を期していただきたい。

児童生徒の通学の安全対策については、全市的な課題として協議、対策を進めている。

市と学校現場はもちろん、引き続き、地域や保護者の皆さんの力をお借りしながら、大切な子どもたちの安全を守っていきたいと考えている。

○保護者による児童の車送迎について検討いただきたい。

車での送迎については、学校の安全管理や集団での登下校体制の維持などの視点から、基本的には難しいとお答えさせていただかざるを得ない。

■スクールバス通学について

○スクールバスのバス停までどうやっていくのか。

現在の通学団をベースに、集団でバス停まで移動していただきたいと考えている。

○バス乗車時、児童はシートベルトの着用等の指導をされるのか。

お見込みのとおりである。

○スクールバス乗車時、児童のランドセルや多数の手荷物等はどこに置くのか。

使用するバスは基本的には「マイクロバス」となる予定であり、特別に児童の荷物置き場等があるわけではない。

ランドセル等は膝の上や座席の下などに置いていただくことになる。

○スクールバスの入札の結果を見たが、過去にバス事故を起こした事業者が選定され、心配をしている。あと半年で安全な運行ができるバスの運転手や添乗員が見つかるのか。

昨今、バスの運転手不足が課題となっていることは周知のとおりだが、「こまくる」のような路線バスと今回のスクールバスとでは勤務形態が大きく異なり、長時間の勤務が想定されにくいスクールバスのような事業については、比較的、運転手の確保がされやすいと承知している。

児童の通学の安全については、委託業者において、運転経験年数、事故歴等の確認に加え、定期的な健康診断など、技能面・健康面・運行体制を総合的に管理することはもちろん、市としてもチェック体制を確立することで、安全な運行体制の構築に努めていく。

■学校間交流について

○学校間交流は全部で何回あるのか

学校間交流については、1学期中にまずは「自己紹介カード」による交流を考えていたが、課題があり、取りやめとした。保護者の皆さまにはご心配をおかけして申し訳ない。

5小学校全体での交流についてはスライドに記載のとおりだが、このほかにも校外学習や総合的な時間を活用し、特定の学校間や学年間での交流を実施していく考えである。

他方、授業の進捗も重要であり、バランス感覚をもって取り組んでいく。

○学校間交流は学校が企画・実施しているのか

教育委員会としては、学校現場の状況を優先すべきと考え、学校を主体に企画・実施をいただいている。

教育委員会としては、学校の過度な負担とならないよう、必要なサポートを実施しているところ。

○できるだけ交流の機会は多くもった方がいいと思う。

学校における子どもたちの日常生活とのバランスの中で、最大限、検討させていただく。

■学校再編について

○学校再編という施策は「児童の教育環境の改善」を主な目的としている旨の説明だが、その場合、施策の根拠となるであろう「学級数」や「学級人数」は何に基づき設定されているのか

児童生徒数／学級数の適正規模について、学校教育法施行規則により 12～18 学級を標準としつつ、地域の実態を踏まえる旨が示されており、小牧市では「新たな学校づくり推進計画」の中で適正規模を 12～24 学級と設定している
また、学級人数については、国・県の基準が決まっており、現在、40 人学級から 35 人学級への引き下げが段階的に行われている。

小牧市としては愛知県の動きを踏まえ、国に先駆け、令和9年度から全小中学校で35人学級を導入する考えである。

○文部科学省の法令等は承知しているが、市町村の裁量が与えられている部分であり、「小牧市がどのような教育をしたいか」という部分を説明するための裏付けとして定量的な説明ができた方がいいと考える。

ご意見として頂戴させていただく。

○学校再編という施策の評価方法を教えてほしい。

各学校ではこれまでも「学校評アンケート」により、教育活動の効果や取組の評価・点検を行ってきた。

学校再編後もこのアンケートにより、再編後の学校において、伸ばすべきは伸ばし、厳しい評価をいただいた点があれば、改めていくことで、新たな学校づくりに活かしていきたいと考えている。

○学校再編が教育環境を改善のため施策であるという説明は、コスト削減のためのレトリックではないかと感じる人が一定数いると思う。

教育とはコストではなく投資であり、その投資がうまくいったのかという定量的な指標を持ちながら、PDCA 機能をしっかりと発揮いただきたい。

これまでも子どもたちの教育環境の改善ということを主眼に置き、議論を進めてきたが、行政運営上、コストという点についても度外視することはできないと考えており、コストと投資の両面を見ながら、施策を進めていく必要がある。

投資という点については、やはり教育の中身と考えるが、長年、小牧市の教育における根幹を担う「学び合う学び」は、多くの仲間との関わりあいの中で、多様な考え方に触れながら、自身を高めていくことを目的としており、P（計画）、D（実行）の部分において、学校再編という施策に大きな矛盾はないと考えている。

今後は、ご意見も踏まえ、施策の効果をしっかりと把握し、必要に応じて、適切に改善を図っていくことで、学校教育の質の維持・向上を図ってまいりたい。

○この度の学校再編について、外国にルーツのある児童生徒やその保護者への説明についてどのように対応されているか。

これまで「再編だより」の多言語化などを行ってきたが、該当の児童生徒や保護者に十分な届いていなかった部分と考えている。

今後、本日の説明内容等も踏まえ、「やさしい日本語」や多言語化したチラシを、各学校を介して直接、届けながら、個別の不安や悩みにも応えていきたいと考えている。

■新たな学校づくりについて

○学校再編により市の教育予算が効率化される部分があるのであれば、各学校の教員数を増やすなど、児童生徒の学びの質の部分を手厚くしてほしい。

教職員の配置人数については、国の基準があることから、市で配置等しているスクールソーシャルワーカーやスクールサポーターなどの配置や巡回数などで教育の質を高めてまいりたい。

○通級指導教室にも業務経験の豊かなベテランの教員を配置してほしい。

市全体で増やす方針であり、新たな学校においても配置させていただく

○大城小学校には「アニモ」という日本語指導教室がある。新たな学校でも設置いただきたい。

現在の大城小学校の日本語指導教室については令和9年度以降、他所への移設を考えている。

現段階では開設場所などはお答えできないが、決定次第、周知してまいりたい。

○学校再編により大変な思いをするのは学校の先生であり、学校現場の意見をしっかりと聞きながら、先生方がやりがいをもって働けるような環境づくりをお願いしたい。

ご意見として頂戴させていただく。

■その他

- 桃花台地区の人口減少、児童生徒の減少が進む中、学校再編によりそうした傾向がさらに強まっていく可能性を憂慮している。今後、桃花台地区をどのように魅力的なまちにしていくか、学校再編も含め、ヴィジョンをもってまちづくりに取り組んでいただきたい。

ご意見として頂戴させていただく。

- 令和9年度に学校再編が行われることがわかっている中、同じタイミングで児童クラブの民営化をする理由を教えてください。

本市では、民間事業者の専門的なノウハウや運営実績を活かし、児童クラブの質の向上と利用ニーズにより柔軟に対応するため、令和7年度より大城児童クラブの運営を民間事業者へ委託をしている。

受託者独自の取り組みにより児童が楽しめる活動に選択肢が広がったこと、保護者アンケートでも満足度が高かったことなど、委託による一定の成果が確認できたことから、学校再編後の2クラブにおいて、引き続き運営委託を継続、拡大していく考えである。